

テーマ

述語の意味派生のしくみを探る

適用分野

理論言語学、語彙意味論、日本語教育、コンピュータ言語処理



研究名称

日本語複雑述語の意味の派生の研究

氏名所属

中谷健太郎 教授
文学部 英語英米文学科

内容

●特徴

本研究では、日本語の複雑述語の意味がどのような一般原理により派生するのかを解明し、特徴付けをしづらい助動詞的な表現の意味を明確にすることを目標とする。本研究は理論研究であるが、外国人への日本語教育やコンピュータによる言語処理といった分野にも応用可能である。

●研究内容

「してあげる・くれる・もらう」「してくる・いく」「してみる・みせる」「している」「してある」など助動詞的と言われる構文の意味論が、それぞれ「あげる」「来る」「見る」などの本動詞の意味と関連があるのは間違いないが、その意味連関のメカニズムはどうなっているのだろうか。「昼食を食べてきた」では「来る」の物理移動の意味が残っているが、「おなかがすいてきた」というと物理移動の意味が雲散霧消するのは、頭の中でどういう意味計算が働いているのだろうか。多義は理由も無く存在しているのではなく、むしろ意味計算の結果生み出されるものである。そのメカニズムを探る。

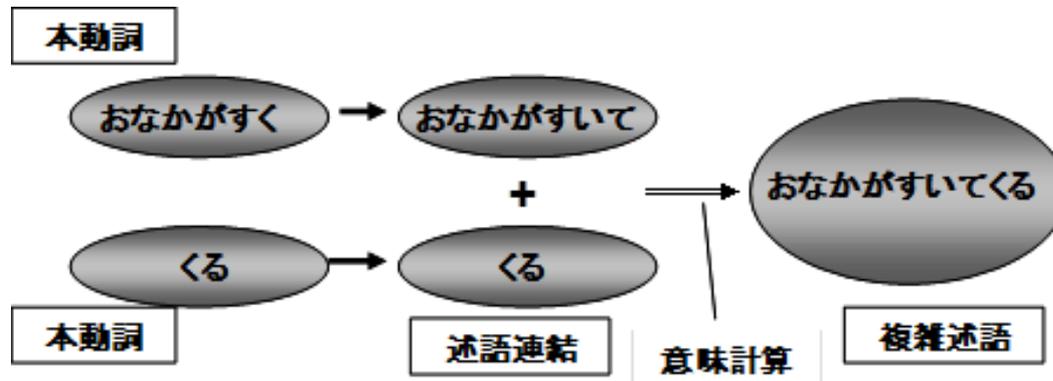


図 述語連結による複雑述語の形成過程

キーワード

複合動詞、本動詞、動的派生

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究